



TITLE:

志村氏のCanonical Modelについて (代数的整数論研究会報告集)

AUTHOR(S):

土井, 公二

CITATION:

土井, 公二. 志村氏のCanonical Modelについて (代数的整数論研究会報告集). 数理解析研究所講究録 1968, 41: 23-24

ISSUE DATE:

1968-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/107645>

RIGHT:

志村氏の Canonical model

について

京大 理 土 井 公二

G. Shimura, Construction of class fields and zeta functions of algebraic curves, Ann. of Math., 85(1967), 58-159.

の附加的一定理を

K. Doi and H. Naganuma, On the algebraic curves uniformized by arithmetical automorphic functions, Ann. of Math., 86(1967), 449-460.

に示したが、この話では、主にその定理から導かれる Hecke 型 Dirichlet 級数に関する問題と取りあげた。

一般的(大ざっぱ)に云って、代数体上の元数環の Hecke 型ゼータ函数の間には、特にその基体の体(center)の拡大に対してちょうど代数体の L-函数の間の関係

$$(K/k \text{ に対し, } \zeta_K(s) = \zeta_k(s) \prod_x L_x(s, \chi))$$

の類似が存在することが予想される。このことは最近の A. Weil の「函数等式による Dirichlet 級数の特徴づけ」の理論からあるいは一般的証明が期待できるかもしれない。講演

者は、最近(この話の後)もかなり多くの例に対し(思考+計算)
実験で予想を確かめているが、そのことについては又次の機会
にゆずりたい。